

## 言語学習は幼児期にこそ

一般に言語学習の成熟期は幼児期にある、とされています。人間が肉体的に成熟するのは大体 20 歳頃ですが、言語の成熟期は非常に早い時期にありまして、学者は三歳から四歳までの間、これを成熟期と呼んでいます。私は、漢字もこの時期に言葉と一緒に学習させるのが最もよい、ということを実験によって確かめております。従来、漢字は難しいものと考えられて来ましたが、しかし、これは決して難しいものではありません。学ぶ時期が余りにも遅過ぎるから難しくなるわけです。言語の成熟期は三歳から四歳の間にあるわけですから、視覚言語である漢字もその時期なら覚えやすいのです。実は成熟期もしくはそれ以前の幼児には、「漢字は言葉よりも覚えやすい」ことがわかりました。それは次の実験によって確かめております。

まず第一番目は、言葉が覚えられないほどひどい脳障害児について、何名か実験しております。どんなにひどい脳障害児でも漢字は覚えることができます。このことについては『親こそ最良の教師』（第四巻「親こそ最良の教師」の I 所収）という本で報告しております、これは昭和 55 年の 10 月に発売になりました。言葉の覚えられないようなひどい脳障害児でも漢字は覚えられます。これは漢字カードと実物とを

対応させる方法ですが、この操作をくり返していると、その間に言葉も覚えられるようになるという事実がありました。これが一つ――。

次は、まだ言葉が言えない赤ちゃんに漢字カードを見せてこれを読んで聞かせていると、漢字をどんどん覚えて、これを読むようになるということです。先ほど言いましたように、一歳半の赤ちゃんはチンパンジーよりも知能が低いくらいです。それはまだ言葉が覚えられないからであって、大体一歳半の赤ちゃんは、30 くらいの片言がやっと言えるに過ぎません。これは私も自分の孫で確かめておりますが、言葉はそのくらいしか覚えることが出来ない。ところが、漢字ですと、200 字から 300 字の漢字を覚えさせることが可能であります。実験はまだ二名だけですが、田中庸介と又吉孝旨という二人の子どもがいずれも一歳半の時点で、200 の漢字を覚えてこれを読んでいます。その理由は、視覚言語の方が聴覚言語よりも覚えやすいということにあります。言葉は発するや否や消えて無くなってしまいが、漢字は覚えるまで待っていてくれます。それともう一つ。言葉の内容は視覚的なものであり、従って視覚言語である漢字がこれと結びつきやすいのかも知れません。事実私がそういう子どもを使って実際に指導してみますと、明らかに漢字は簡単に覚えられます。